会員募集

会員を募集しています。わたしたちの活動を理解していただき、ご協力できる方、ご一緒にアジアでのボランティアをはじめませんか。

(1) 入会金

正 会 員 1 万円	団 体 正 会 員 3 万円
活動会員 なし	団体活動会員 3 万円
賛助会員 なし	団体賛助会員 なし

(2) 年会費

正 会 員 1 万円	団 体 正 会 員 3 万円
活動会員 5 千円	団体活動会員 3 万円
賛助会員 1 口 5 千円	団体賛助会員 1 口 5 千円

振り込み先

・名　義「特定非営利活動法人　Ｔ・Ｍ良薬センター」
・銀　行「群馬銀行本店　普通　２１３４１５０」
・郵便局「００１６０－５－５９１７８１」

「子ども達の未来を考える」

常時ご寄付を集めています

TM良薬センター

表紙写真／ミャンマー、マイトリースクールにて
印刷協力／群馬県沼田幼稚園（田代浩敬園長）

ロジークラブ 22

ミャンマースタディーツアー／井戸／福島

TM良薬センター

「あたりまえをあの子にも」

会　報　　第２２号
平成２６年　１月２８日

T・M 良薬センター事務局
371-0852　　群馬県
前橋市総社町総社 1024
Tel&Fax：027-254-2325
E-mail：office@tmrc.jp
http://www.tmrc.jp

「世界の平和のために」

理事長　小野文珖

2014 年、平成 26 年という年が明けました。暮の 12 月 6 日、「特定秘密保護法案」が強行採決され、暗雲が立ちこめています。安倍政権は 1 月の通常国会に「集団的自衛権の行使」を議題にのせて、戦争放棄の九条改憲をめざすと発表しています。

私たち海外でボランティア活動するものにとっては重大な時を迎えています。なぜなら、今までアジアで事業を展開するに、アジアの人達は、日本は絶対に戦争をしない、侵略にきたのではない、という安心感から、信頼して受け入れてくれました。日本の平和憲法はアジアの人達に知れ渡っています。日本人はそのため、どこでも、いつでも尊敬をもって迎え入れてもらったのです。

私たちも胸を張って誇りをもって支援活動に尽力してきました。あの 70 年前のアジア・太平洋戦争のような愚かな誤ちは犯さない、という誓いのもと、共生共存の人道的な交流を積み重ねてきたのです。日本国憲法九条は、日本の宝であるとともに人類の宝である、という確信を深めてこれました。

それなのに、ここにきて、70 年の民間外交の成果を一挙に踏みにじるような、安倍首相の戦争宣言です。「積極的平和主義」の言葉に騙されてはいけません。「集団的自衛権の行使」とは、戦争をする国になるという宣言なのです。これを止めないと、隣国は不信感から疑心暗鬼に落ち入り、本当に戦争が勃発してしまう怖れが現実になってしまいます。

アジアの友好国も今までのような接し方はしてこないでしょう。インドやベトナムが兵器や原発を日本に求めるようになったのは決して喜ばしいことではありません。政治家はともかく、彼の国の国民は日本への敬意を、世界でも「特殊な国」日本への憧れを、失望に変えつつあります。

インドの友人から伝言がありました。日本が「普通の国」になってしまうのは残念だ。アジアの軍拡競争に日本が歯止めをかけてくれるだろうと期待してたのに・・・・・。

安倍政権の企みを阻止することは、日本のためだけではなく、アジアのため、ひいては世界のための正しい行為です。今年、私たちの団体は、「戦争をしないという憲法を 70 年近くも保持し続けている日本国民にノーベル平和賞を授与して下さい」という運動に参加します。ノルウェーノーベル委員会は 2014 年度のノーベル平和賞候補にノミネートしてくれました。受賞をめざして署名活動を展開します。是非ご協力をお願いいたします。

アジアの子ども達のために、多くの方々から温かいご支援が届いています。改めて感謝申し上げます。

・2013年5月、東京都目黒区常圓寺（古河良晧住職）が花まつりの収益の一部をアジア支援活動に寄付。
・2013年8月、東京都豊島区本納寺（森部達彦住職）がミャンマー、マイトリースクールにサッカーゴールなどを寄付。
・2013年8月、神奈川県三浦郡葉山本圓寺（小崎龍延住職）がスリランカの子ども達に絵本を寄付。
・2013年8月、茨城県取手市瑞法光寺（速水壽壯住職）寄付。
・2013年9月、埼玉県東松山市妙昌寺（村井淳匡住職）がカンボジアに学校を建設落慶、3月スタディーツアーの予定。
・2013年9月、埼玉県川口市実相寺（松永慈弘住職）寄付。
・2013年9月12月、茨城県水戸市蓮乗寺（前刀啓運住職）がネパール、釈迦族の生活支援。
・2013年11月、東京都練馬区妙福寺保育園（戸田了達園長）が、ミャンマーの保育園に粉ミルクやオムツなどを寄付。
・2013年11月、東京都練馬区釈迦本寺（権藤泰應住職）がミャンマー、マイトリースクールの全校生徒に上履きを寄付。
・2013年11月、埼玉県行田市妙心教会（中野浄蓮住職）が運営費寄付。

福　島

3・11から3年が経とうとしていますが、未だに仮設住宅での生活を余儀なくされている人々が大勢います。縁あって、交流を続けている福島県伊達郡桑折町の仮設住宅の小澤是寛自治会長にお話しを伺いましたので、ご紹介させていただきます。

福島の浪江町は、放射能汚染により住民が仮設住宅等に避難しています。浪江町の仮設住宅地は仮役場がある二本松市内や、福島市、本宮市、相馬市、南相馬市等に点在しています。避難生活が始まると各仮設で、自主的に自治体が組織されました。「32 カ所ある仮設の中で、ここ桑折町の仮設が一番始めに自治体を作りました。私が最初の仮設住宅自治会長です」と、つらそうに話す小澤会長は、仮設住宅 215 棟、利用者 380 名の代表です。原発事故当時、「当仮設の避難者は 500 名近くいましたが、若い人達は次々と働きに出て行き、現在はお年寄りばかり。80 才以上は 65 名、私は 68 才になりますが、上から数えて 220 番目です」。

桑折仮設の自治会長として、毎月行われる浪江町復興委員会や、「NPO 新町浪江」の会議など対外実務を勤めながら、仮設内の様々な問題に対応しています。「ここはサークル活動が沢山あります。紙芝居や小物細工、ダンスや歌など毎日のように集会所が使われています。ただ、外に出てこられる人はまだいいのです。一日中引きこもっている人が心配です。無理矢理引っ張ってくるわけにもいかない。」与えられているプレハブは、1 人暮らしには 6 坪（四畳半一間）、2 ～ 3 人は 9 坪、3 人以上は 12 坪。「元々住んでいた家の玄関より狭い部屋です。我々は月 10 万円の賠償金と年金で生活し、家に戻れる日を夢見て 1 日 1 日を堪えています。皆病んでいます。」

ガレキの撤去も、除染も行われていないのです。

井　戸

多くの方々の支援により井戸堀り事業が着々と進んでいます。カンボジアでは1基6万円で寄贈することができます。常時スポンサーを受け付けています。ご協力を！

大阪和泉宗務所、八王子市法妙寺（神藏義一住職）のご支援により 2013 年 8 月、ミャンマー東部トンワ州に井戸が寄贈されました。ミャンマーは 1 基掘削に約 15 万円かかりました。

2013 年 10 月、カンボジア、シェムリアップ州に井戸が 2 基完成しました。1 基は（株）やま慎（天田慎太郎社長）から、初めてご支援いただきました。1 基は昨年に引き続き、横須賀市正蓮寺有志一同よりご寄付いただきました。（3 月にスタディーツアー予定）

2014 年 1 月に立正同志会からご寄付を受け、1 基設置することが決まっています。井戸が完成すると、近隣住民が生活に利用し、助かっています。水の病気も減ります。ご協力ありがとうございます。

スタディーツアー

T・M良薬センターのスタートである、ミャンマー・マイトリースクールの校庭にサッカーグラウンドが設置されました！　2013年11月24日から29日まで、サッカー支援と日緬保育園交流のために、豊島区本納寺（森部達彦住職）グループと練馬区妙福寺保育園（戸田了達園長）との合同スタディーツアー（8名）が実施されました。

Shwe Gon Daing 保育園は、多くの孤児が生活している孤児院のような保育園でした。妙福寺保育園の保育士達が用意した日本の紙風船が大人気。1 才から年長クラスまで見学しました。年少クラスでもオムツをつけないことにカルチャーショックを受けました。「もらしたら拭けばいい」そうです。粉ミルクなど（約 12000 円分）が寄付されました。続いて訪問した Silta Lumbini 保育園は、英語の授業があったり、きれいな園庭が併設された高級な保育園でした。オーナーに園内を案内していただき、園児や先生と交流しました。給食の試食もありました。こちらではその日の園児の夕食（約 8000 円分）が寄付されました。「職員に良い経験を積ませることができた。帰国後それぞれの保育で活かしてほしい」と、戸田園長はご満悦です。

森部住職が志すサッカー支援によって、「マイトリースクール」（ミャンマー北部マンダレーから車で 2 時間南下したところにあるザガイン村のハンセン病コロニーに、2005 年 9 月に開校した学校）にサッカーゴール 1 対と、サッカーボール 10 個、ユニフォームとスパイク 30 セット、医薬品などが寄贈されました。

寄贈式で森部師が「言葉が通じなくてもボール一つあれば、楽しんで仲良くなれるのがサッカーです。私たちは皆さんと遊ぶために日本から来ました。一緒にサッカーをしましょう！」と挨拶すると歓声が上がりました。早速ユニフォームに着替えて試合が始まりました。気温 35 度の炎天下、整備されていないグラウンドには砂地があったり、石が転がっている所があったり、ラインの外にボールをとりに行くと沼地にはまったりと、日本では体験できないゲームになりましたが、選手は無我夢中。前半 1 対 1 で折り返すと、後半日本人選手が肩で息をするなか、元気いっぱいの生徒達の活躍で 1 点ずつゴールを決め、2 対 2 で試合終了となり、お互い健闘をたたえました。試合中折り紙の争奪戦を繰り広げていた他の生徒も混ざって記念撮影しました。